



とらいあんぐる



2023 年 5 月

一音会ミュージックスクール発行

「教えるということ」

新年度がスタートして、少し経ちました。新しい学年の生活も、落ち着いてくる頃です。

この時期、学校は教育実習の時期でもあります。

教育実習とは、教員免許を希望する大学生が、実際に小中高の学校に行つて、2～3週間ほどの期間、その学校の先生として働き、学ぶことです。

実習の中では、実際に授業を受け持ちますし、ホームルームをまかされる

こともあります。課外活動に参加することもありますし、学校行事にまぜてもらえることもあります。

たいへんですが、とても充実した日々です。学校の先生のたいへんさを身をもって知る日々にもなります。

私も、教育実習で、中学校と高校にお世話になったことがあります。大学3年生の時でした。

私がお世話になったのは、大学付属の学校でした。中高一貫校なので、一度の実習で、中学と高校の両方を体験させてもらうことができました。

教える教科は、社会科です。個人的にあまり好きな教科ではありません。けれども心理学専攻ですと、社会科が一番免許をとりやすいのです。

中学校では「歴史」の授業、高校では「政治経済」を担当させてもらうことになりました。

ここは選べません。指導役の先生が決めたことにしがいます。

「歴史」は、「日本史」と「世界史」両方とも大学受験で使った科目ですので、高校までの授業がカバーする内容は、一応、頭に入っていました。ましてや授業をおこなうのは中学です。

新たに勉強する必要は、おそらくないでしょう。気が楽です。ただし、繰り返しますが、あまり好きな教科ではなく、どちらかというと苦手でした。

圧倒的に問題なのは、「政治経済」です。大学受験の科目ではないので、全然勉強したことがありません。

常識もたいしてない上、政治や経済

に興味がありません。そもそも、政治にも経済にも興味がないから、人文科学系の学部にいるのです。

教えるなんて！

こちらが教えてもらいたいくらいなのに！

困りました。

とはいえ、あれこれ悩む間はありません。

実習がはじまれば、すぐ授業もはじまってしまうのです。

勉強しながら教えるしかありません。本当の一夜漬けです。

自分で調べたことを説明することはできます。

教科書に書いてあることも・・・まあ、説明できるはずです。たぶん。

読めば分かるように書いてありますから。

でも、ちょっとななめの質問が来たら、おしまいです。

教壇に立って、足がふるえました。

昨日、勉強して知ったことを、生まれた時から知っているくらいの顔をしてしゃべることになりました。内心、「はやく終われ」しか考えていません。

時間は、ゆっくりゆっくり流れます。

「質問が来たら終わりだ！」

そう思うと、背中を冷たい汗が流れるのが分かりました。

時間を余らせることなく、しゃべりたおすことも重要でした。時間が余ったら、余計な質問を受けてしまいそうです。

まるで全力疾走です。1コマ、授業が終わると、疲れと安堵で、走り切ったランナーのように、倒れ込みそうになりました。



今、思うと、そんなに気負うことはないので。

でも、当時、大学生だった私にとって高校生は歳も近く、必要以上に「先生らしくあらねば」と思い込んでいました。「なめられたら終わりだ」とも思っていました。

せめてもの救いだっただのは、中学の「歴史」の授業に関しては、ほぼ勉強の必要なく授業できたことです。こちらは、ほとんど記憶にありません。

当時、ねてもさめても、とにかく頭は「政治経済」でいっぱいなのです。

1つ、授業が終わっても、次の授業は翌日です。

部活につきそって、暗くなって帰宅した後、また「政治経済」の知識を新たに仕入れて、明日の授業の準備をしなければなりません。政治も経済も、ちっとも興味がないというのに！

睡眠時間がどんどん減っていきました。

そんな自転車操業を3～4日、おこなった後のことです。

「実習の期間中、ずっとこんなことを続けていたら、倒れてしまう！」

困り果てた私は、良い言い訳を思いついてしまいました。

堂々とひらきなおることにしたのです。

「あのね。政治経済は『生きた学問』なのよ。わかる？ 日々、社会は動いているの。だからね。政治のことも経済のことも、変わるの。いろいろ。だから、質問してもらっても、先生も調べなくちゃいけないことがあるんだからね。いろいろ。わかった？」

えらそうです。



口はえらそうですが、ドキドキが止まりません。

もう、汗が流れるどころではありません。汗びっしょりです。

でも、「調べるからね」と、一方的に宣言することに成功します。

宣言してしまえば、こっちのものです。これで、質問が来たら「ちょっと待っててね」といって、その場で堂々と調べてしまえば良いのです。

知らなくても良い、調べれば良い、ということにしてしまえたのは、革命的でした。ものすごく気が楽になりました。

調べれば良いことになってからは、資料をたくさん集めるようになりました。たくさん集めておけば、安心です。

また、たくさんの資料を、てきとうにナナメ読みしながら、分かりやすい記事、生徒が興味を示しそうな内容を探す作業は、案外、楽しい作業でした。

たくさん目を通すうち、私の知識量

も少しずつ増えていきます。

当時、私の家では、新聞は一般紙の他に日経新聞をとっていましたが、恥ずかしながら私はそれまで、一般紙ばかり読んでいました。

実習期間中に、はじめて日経新聞を読むようになりました。意味が少し分かるようになったことで、ちょっとおもしろく思えてきます。

そうすると、授業の小ネタに新聞の記事を使うことも出てきて、まさに「生きた学問」となりました。口から出まかせだった「生きた学問」が、まさか本当になるとは！

気がつけば、全然、興味がなかった政治や経済がおもしろくなっています。現在とのつながりが分かりにくい中世ヨーロッパの宗教革命なんかよりも、今の生活に直結した知識だと感じていました。

でも、知識としては、とぼしいままです。

だって、せいぜい1週間～10日くらい、にわか勉強なのです。ただの“ビギナーズハイ”です。

大学受験で時間をかけて勉強した「歴史」の知識量の100分の1にも達しないレベルです。

お粗末な上に、こんなにあぶなっかしいのに、不思議なことに私の授業は「歴史」より「政治経済」の方が、生徒から圧倒的に評判が良いのでした。

「たくさん知識があれば上手に教えられる、というものではない」ということを、私はこの時、知りました。

それまでは、「教える＝人に知識を伝える」という図式をイメージしていました。



少し違うのかもしれないと、はじめて思ったのです。

教える営みとは、その人がおもしろい、伝えたいと思っていることを、他人に伝えようとする、おもしろさを共有して分かってもらおうとする、そんな営みなのかもしれません。

先生自身が、その内容に興味を持ち、「おもしろい」と思い、「伝えたい」と考え、「分かってほしい」と願う、それが教育の原動力なのでしょう。

そう考えると、ものすごく感情的な営みなのかもしれません。

思えば、大学の授業は、ほぼすべてがそんな感じです。小中高と違い学習要綱がないので、教授がしゃべりたいことだけしゃべっています。

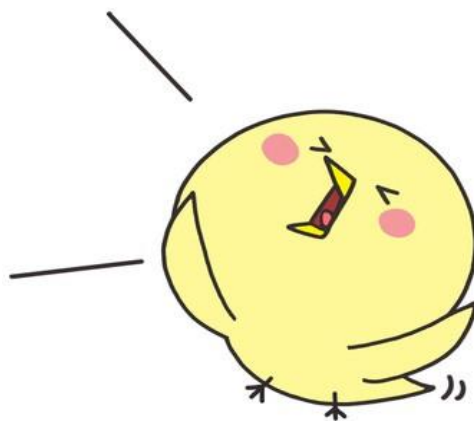
教授だけが楽しそうな授業というのは、ものすごくたくさんあります。

最初のうちは、「〇〇先生、今日も楽しそうだな～」「このテーマが本当に好きなんだな～」と、どこか距離を置いて

感心しながら講義をきいています。

毎週、きいていると、その熱が伝わり「なるほど、おもしろくないこともないな・・・」と思えてきます。気づいた時には、完全に教授の思想にとりこまれています。

こうして、「分かってほしい」は、ちゃんと果たされています。



さて、ピアノの先生という人は、例外なく、異常に音楽が好きの人です。

音楽が好きではないのに、音楽の仕事につくことは、絶対にあり得ません。

何度も『とらいあんぐる』でうちあけていますが、音楽の道は無駄に険しいのです。

音楽が好きなのに、音楽の道を選ば

ない、いえ、冷静に考えたら選べなかった、ということはありません。むしろよくあることです。

好きであっても選びにくい音楽の道を、好きじゃない人がわざわざ選ぶことは、ありません。

数ある職業の中から、あえてピアノの先生を選ぶ人は、突出して音楽が好きなのです。他のことを犠牲にしても音楽を選んでしまったのです。そのくらい、好きなのです。

一音会には、いろいろな先生がいますが、皆、音楽を愛する人々です。そこは大きな共通点です。

音楽が好きで好きで好きで、この素晴らしい音楽を聴衆に伝えたい、子どもたちに教えてあげたい、表現できるようにしてあげたい、そんなことばかり考えている人々です。

「ほら、この曲すてきでしょう？」

「ここをなめらかに弾くと、もっときれいでしょう？」

「この和音を響かせると、すごくかっこいいでしょう？」

他ではあまり見かけないナゾの情熱を、あふれさせています。

生徒さんは、ぜひその情熱をあびてください。

先生たちが願っているのは、つきつめれば、先生が「すてきだな」って思う音楽のすてきなところを、生徒さんに「すてきだな」って思ってもらうこと。ただそれだけなのかもしれません。

「おうちで練習してきてほしい」が願いではないといえばウソになります。

でも、そんなことより、音楽を好きになってほしいのです。

今は、発表会の曲と出会ったばかりの生徒さんも多いでしょう。まだその曲のことがよく分からないかもしれません。まずは、その曲のすてきなところを見つけてみませんか？

先生たちが喜んでお手伝いするでしょう。 (江口 彩子)

◆「第17回ジュニア・コンサート」を開催しました

4月28日（金）に、大泉学園「ゆめりあホール」にて、「第17回ジュニア・コンサート」を開催しました。

たくさんの方に足をお運びいただきました。ありがとうございました。

今年のオーディションは、もっとも参加者が多く、不合格者も多いオーディションとなりました。必然的に、非常に水準の高いオーディションでした。

今年のオーディションにエントリーしてくださった生徒さんは、特別、難しい年に挑戦したことを、どうか誇りに思ってください。音楽性にあふれた多くの生徒さんが、この難関に果敢に挑戦してくださったことを、私どもスタッフ一同も、心から誇りに思います。

◆夏の発表会にむけて

今年の夏の発表会は、7月30日（日）、8月4日（金）、5日（土）、6日（日）、7日（月）の5日間です。会場は、7月30日（日）のみ「板橋文化会館小ホール」残りの4日間は、「清瀬けやきホール」です。

5日間のうち、ご都合の良いお日にちをお選びいただきたいと思います。

リトミック発表の生徒さんは、8月5日（土）か6日（日）の、いずれかのお日にちを選んでご参加ください。

昨年、日曜日に皆さまのご希望が集中し、日曜日の時間が予定よりも遅れてしまいましたことを反省し、日曜日を2日、含む形で開催することといたしました。早い日程をご希望の方は、7月30日（日）をぜひご検討ください。

7月30日（日）

板橋文化会館小ホール

8月4日（金）～7日（月）

清瀬けやきホール

板橋文化会館小ホール→



← 清瀬けやきホール

生徒さんの中には、4月にピアノのレッスンを始めたばかり、中には一音会に入会したばかり、という方もいらっしゃると思います。「まだ曲らしい曲は1曲も弾けないから発表会なんて無理だわ・・・」とお考えかもしれませんが、そんなことはありません。

先生の伴奏で、すてきに仕上げることができます。おうちの方との連弾でご出演いただくこともできます。おうちの方と一緒に舞台上で演奏する経験は、おうちの方にとっても、すてきな思い出になることでしょう。レッスンの中で、おうちの方の演奏のサポートもさせていただきますので、ぜひ先生にご相談ください。

0～3歳の生徒さんは、リトミックの発表で舞台上に上がっていただきます。すで

にご家庭での練習用の動画をお配りしています。おうちでも動画を観て、お歌やふりつけを覚えてくださいね。

くわしくは、リトミックのレッスンの中でご案内させていただきます。

「発表会のおしらせ」は、6月3日（土）よりお配りする予定です。中に出欠希望用紙がありますので、日程や部のご希望を記入し、ご提出ください。ご提出の〆切は、6月25日（日）です。

◆「ピアノ発表会」希望用紙の提出にご協力ください

「発表会のおしらせ」は、ピアノの担当の先生がお渡しします。まだピアノをおはじめになっていない生徒さんは、リトミックの担当の先生がお配りします。

「発表会のおしらせ」の中に、「ピアノ発表会・出欠希望用紙」が入っていますので、ご記入ください。レッスンの際に、「ショパンはうす」受付もしくは担当の先生にご提出ください。メールに希望用紙を添付してお送りいただくのもけっこうです。FAXも受けつけいたします。

メールでお送りいただく場合は、以下のアドレスへお送りください。

本部メールアドレス： ichionkai.piano@gmail.com

本部FAX番号 **：** **03-3957-8864**

この用紙は、お手数ですが、ご参加になれない方にも提出していただきます。過去に、用紙をお出しになっていない生徒さんを不参加としていたところ、用紙を提出し忘れていただけだった、ということが多くありました。そういった事態を防ぐために、不参加の場合にも、念のため、その旨の意思表示をいただきたいと思っています。お手数ですが、ご協力をよろしくお願いいたします。

一音会では、ピアノ発表会を、原則、全員参加と位置付けています。大きな舞台上、多くのお客さまの前で演奏する経験が、非常に重要であると考えているからで

す。

緊張を乗り越えて、やり遂げ、大きな拍手をもらう経験は、ピアノを続ける上での大きなモチベーションになります。また聴き手を意識して演奏を作り上げていくプロセスはピアノの練習には重要ですが、それには発表会という目標が不可欠です。

一音会の発表会は、1年に一度です。1年、欠席してしまいますと、まる2年、発表の機会がないことになってしまいます。ぜひ、欠かさずご参加ください。

出欠希望用紙には、参加希望日を書いていただくようになっています。5日間の開催としておりますのは、ご予約と重ならない日を選んでいただきたい思いもございます。

時間帯（部）につきましては、ご希望にそうようにいたしますが、部によって極端に人数が偏ってしまった場合のみ、個別にご相談の電話をおかけすることがあります。どうぞご理解ください。

お申し込みいただいた後で、日程的なご都合が変わった場合は、できるだけ早くご連絡ください。

お手数をおかけしますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

◆ 「リハーサル・トライ」をおこないます

一音会では、「ピアノ発表会」に向けての準備の一環として、「リハーサル・トライ」をおこなっています。

「リハーサル・トライ」とは、文字通り、発表会のリハーサルです。あわせて、人前で演奏する経験を積む、グランドピアノで演奏してみる、普段のレッスン以外の先生に見てもらい、等といった目的も持っています。どれも、演奏にみがきをかけるために、大切なことばかりです。

「ピアノ発表会」当日は、時間の関係で、リハーサルの時間をご用意することができません。また、当日よりも、当日の少し前にリハーサルをおこなう形の方が

「もっとこうの方が良かった」という、リハーサル時の反省を本番に反映させることができると、私どもは経験から確信しています。そのためにおこなうのが、「リハーサル・トライ」です。

「リハーサル・トライ」は、「ピアノ発表会」にご参加になる方すべてに、ご参加資格があります。参加費は無料です(ピアノ発表会の参加費に含まれています)。

くわしくは、「発表会のおしらせ」にはさみこんであるプリントをごらんください。

「リハーサル・トライ」には、経験豊かな先生が進行役として立ち会います。発表会当日の流れや、ご注意いただきたいことも、ご説明します。もし演奏に改善点があった場合には、ピアノ担当の先生に連絡をします。生徒さんご本人に直接伝えて混乱させることはありませんので、ご安心ください。

レッスンの日程と重なって実施しますので、原則、ピアノ担当の先生は、立ち会うことができません。もし、担当の先生が伴奏をする場合は、先生と日時の都合をあわせた上で、お申し込みください。

本番のような気持ちで、事前に一度、演奏をしておく、やはり違うものです。それは、これまでに「リハーサル・トライ」を活用された多くの方がおっしゃることです。

すべての生徒さんが、本番で、持てる力を存分に発揮することができますよう、私どもスタッフも、全力でお手伝いいたします。

「リハーサル・トライ」の場所は、基本的には「ヘンデルはうす」103か204のお部屋を予定しています。

各曜日に、「リハーサル・トライ」の時間帯をもうけますので、ご都合の良い日時をお選びになって、お申し込みください(発表会の希望用紙とは別に、お申し込みいただく必要があります)。

お申し込み〆切は6月25日(日)です。ご不明な点は、本部まで直接、おたずねください(03-5966-7711・担当:矢島、伊藤)。

◆「音楽会」を開きます

一音会スタッフの三浦奈美子先生（声楽）と吉田梨乃先生（ピアノ）が、「ひびきホール」で、音楽会「なみのおとコンサート」を開催します。午前の部と午後の部があります。

趣旨は、小さな生徒さんにも安心して音楽会に足を運んでいただき、楽しいお歌とピアノで楽しい時間を過ごす、というものです。

小さなお子さまにとって、音楽会は足を運びにくいものです。ですが、クラシック音楽を学ぼうとしているのに、クラシック音楽の演奏会に行けないのは大きな矛盾です。

また、この3年間、コロナのせいで音楽会自体、開催の機会が失われてきました。

未だ音楽会に足を運んだことがない、というお子さまが、増えています。コロナのせいとはいえ、本当に残念なことです。

今回の音楽会は、0歳から入場できます。そして、未就学のお子さまは無料です。

小さなお子さまにも楽しめるプログラムとなっていますので、ぜひ多くの方に足を運んでいただきたいと思います。

日にち：6月4日（日）

時間：午前の部 開場 10:30 開演 11:00 終演 12:30

午後の部 開場 13:30 開演 14:00 終演 15:30

場所：「ひびきホール」（「東長崎」駅南口より徒歩5分）

入場料：おとな 1500円 小中高生 500円 未就学児 無料

チケットは、「ショパンはうす」受付でもご購入いただけます。くわしいプログラムは、教室にありますチラシをごらんください。

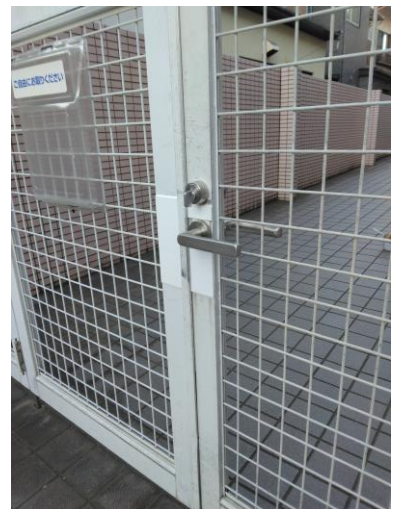
◆「ショパンはうす」の門扉にカギをつけました

「ショパンはうす」の前の道路は、それなりに車が通る道です。幸いにして「ショパンはうす」の玄関から道路までは距離がありますが、玄関から小さなお子さまが突然、駆けだしてしまうと危ないことがあります。

これまで、おうちの方が見守ってくださっていることで、事故を防いできました。引き続き、おうちの方には、小さなお子さまから目をはなさないよう、お願いしたいと思いますが、先日ある保護者様から「門扉にカギを付けてはどうか？」という、とても良いアイデアをいただきました。

「ショパンはうす」の敷地から道路に出るところの門に、サムターン式のカギを取り付けました。外側からも内側からも、開閉できます。開く時、カギを開けてから扉を開け、閉めたらまたカギをかけてください。扉を開ける前に「カギを開ける」という動作が必要になり、ここにワンクッションはさむことで、お子さまの飛び出しを防ぐことが目的です。

出入りの際に、ご面倒をおかけすることになってしまいますが、ご協力をどうかよろしく願いいたします。



*学校の生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：ichionkai.piano@gmail.com

電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。